

事業効果測定の概要

1 概 要

モデル事業に対する調査・研究を実施するに当たって、次の3点を想定した。

利用者のニーズに合った小グループ活動を導入することによって、利用者が楽しみ・やりがいを感じながら自主的・能動的に活動に取り組むようになるとともに、活動の継続性が高まり、介護予防につながるのではないかと。

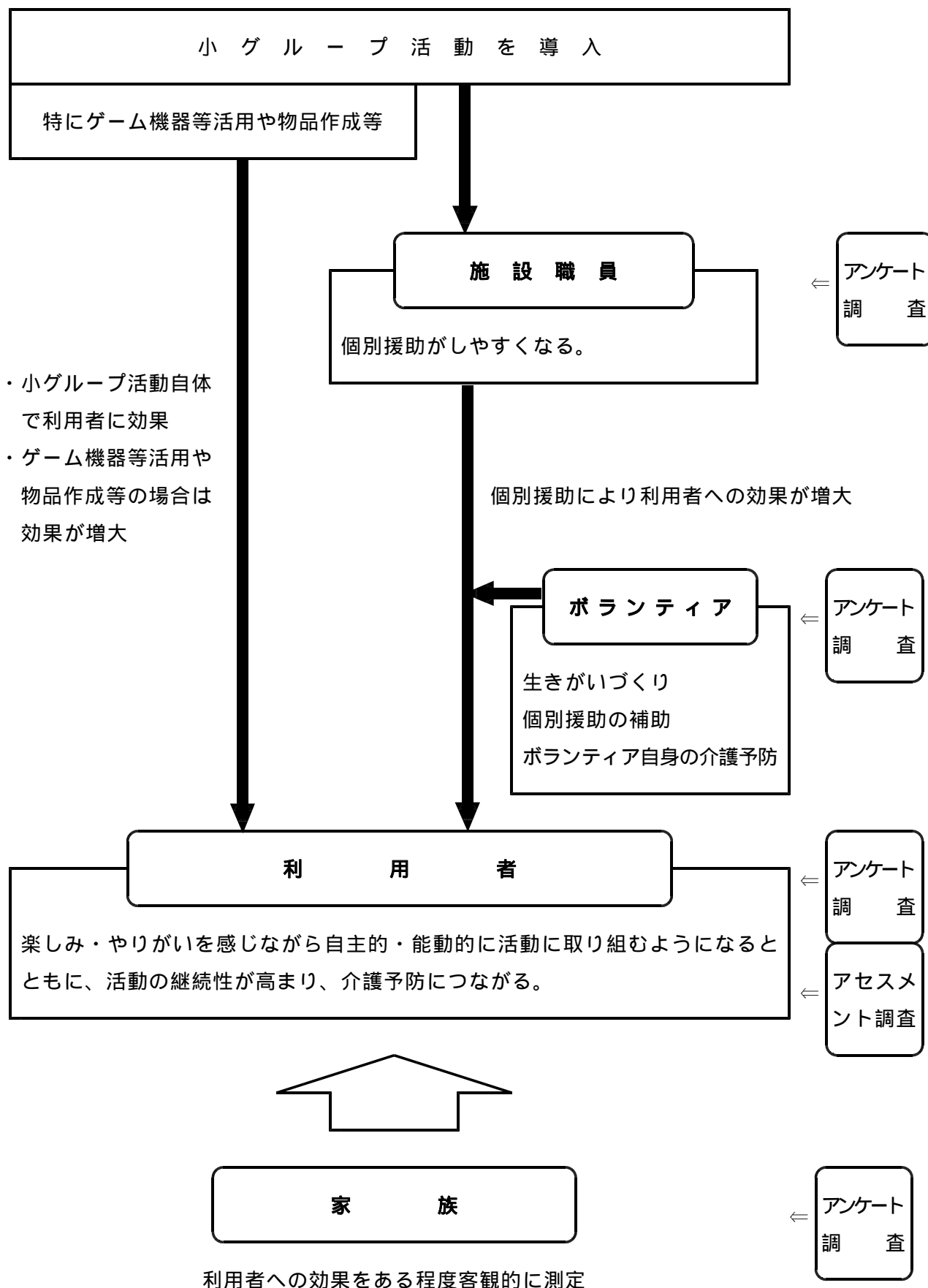
小グループ活動の内容(コンテンツ)として、ゲーム機器等の活用及び物品作成等の場合は、効果が高いのではないかと。

小グループ活動を導入することにより、職員は個別援助がしやすくなるのではないかと。

～ のポイントに着目し、事業効果を測定するために、モデル事業の実施前及び実施後に、利用者、家族、職員及びボランティアに対してアンケート調査を実施するとともに、職員により利用者の心身の機能などのアセスメント調査を行った。

以上の内容を体系化すると、(図表5 - 1)のとおりとなる。

(図表 5 - 1) 事業効果測定体系図



2 アセスメント調査について

MARRCC (マーク)

高齢者の心身の機能やQOLを評価する方法には様々な評価スケールが見られるが、要介護高齢者を対象とし、レクリエーションなどのケア活動による効果を測定する評価手法であるMARRCC (Measurable Assessment in Recreation for Resident-Centered Care 施設入居者のためのレクリエーションアセスメント測定)を用いることとした。

MARRCCとは、高齢者福祉施設においてケアの目的を持ったレクリエーションを実施するときに、施設職員によって身体的領域、社会的領域、認知・知的領域、感情・精神領域に分けて評価する観察尺度で、Sienna's Mark LLCにより開発され、アメリカを中心に使用されている。各領域ごとの10項目の設問をチェックすることによって点数化(1.86点~-1.86点)され、容易に定量的な評価が可能である。

(参考) 日常生活基本チェックリスト

本事業は、高齢者の楽しみややりがい、活動意欲の高まりを検証するものであるが、小グループ活動についての活動意欲が日常生活行動や日常生活意欲にどのように結びつくのかを試験的に評価することとした。

そのため、すでに厚生労働省から示されていた老人保健事業における基本健康診査で使用する基本チェックリスト(案)を基に、モデル事業が3ヶ月という短期間では顕在的な効果はあまり大きくないと予想されること、栄養改善や口腔機能向上など小グループ活動で得られにくいと考えられる項目は初めから対象外すること等の理由により、項目の変更を行うとともに、日常生活上の意欲を評価するスケールを補足して、独自に「日常生活基本チェックリスト」を作成し試行したところである。

3 調査対象別の評価分析の考え方

(1) 利用者及びその家族

利用者及びその家族に対する調査目的（仮説）、アンケート調査及びアセスメント調査を体系化すると、（図表5 - 2）のとおりとなる。

この調査結果を次の手順で評価分析を行った。

単純集計（図表5 - 2の ~ ）

) 小グループ活動による効果の検証

アンケート調査及びアセスメント調査の各項目の調査結果を事業実施前後で比較した。

（ - 1、2、3 参照）

事業実施前後の状況

事業実施前後の変化の状況

) サービス内容（コンテンツ）の効果の検証

ア アンケート調査及びアセスメント調査の各項目の調査結果をグループ別に集計し、事業実施前後で比較した。（ - 4 参照）

グループ別の事業実施前の状況

グループ別の事業実施後の状況

イ アンケート調査及びアセスメント調査の各項目の調査結果について、グループ別に「向上」「維持」「低下」の割合を算出した。（ - 1、2 参照）

) 小グループ活動の効果があるターゲットを検証

アンケート調査及びアセスメント調査の各項目の調査結果について、次のターゲット別に「向上」「維持」「低下」の割合を算出した。（ - 1、2 参照）

男女別

要介護度別

認知症の程度別

) ~)とも、MARRCCについて「ウィルコクソンの符号順位和検定」を用いて事業実施前後の統計的有意差を検定し、有意差があるときは以下のとおり表記した。（ - 2 参照）

* : $p < 0.05$ ** : $p < 0.01$ *** : $p < 0.001$

クロス集計

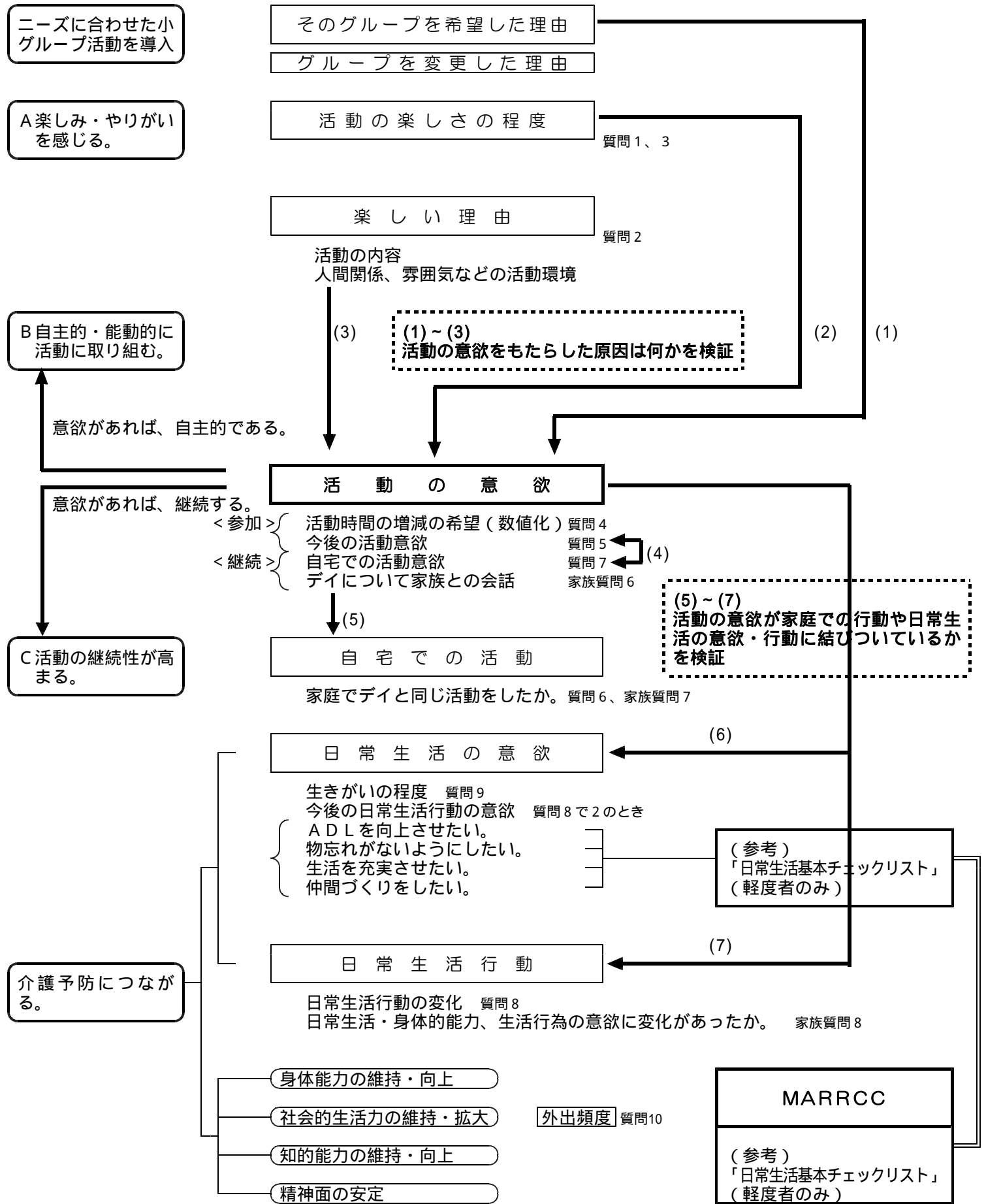
) 「活動の意欲」を軸にして、その要因と効果を分析することを目的に（図表5 - 2）の(1)~(7)のとおりクロス集計を行った。（ - 5 参照）

) MARRCCを軸にして、その要因を分析することを目的にクロス集計を行った。（ - 6 参照）

なお、家族に対するアンケート調査のうち質問1から質問5までは、職員により実施するアセスメント調査（MARRCC）を補完するものである。

(図表 5 - 2) 利用者及び家族調査体系図

(仮説：利用者)
 (X)ニーズに合わせた小グループ活動を導入することで、利用者が(A)楽しみ・やりがいを感じながら(B)自主的・能動的に活動に取り組むようになるとともに、(C)活動の継続性が高まり、(Y)介護予防につながる。



(2) 職 員

職員に対する調査目的（仮説）及びアンケート調査を体系化すると、（図表5 - 3）のとおりとなる。

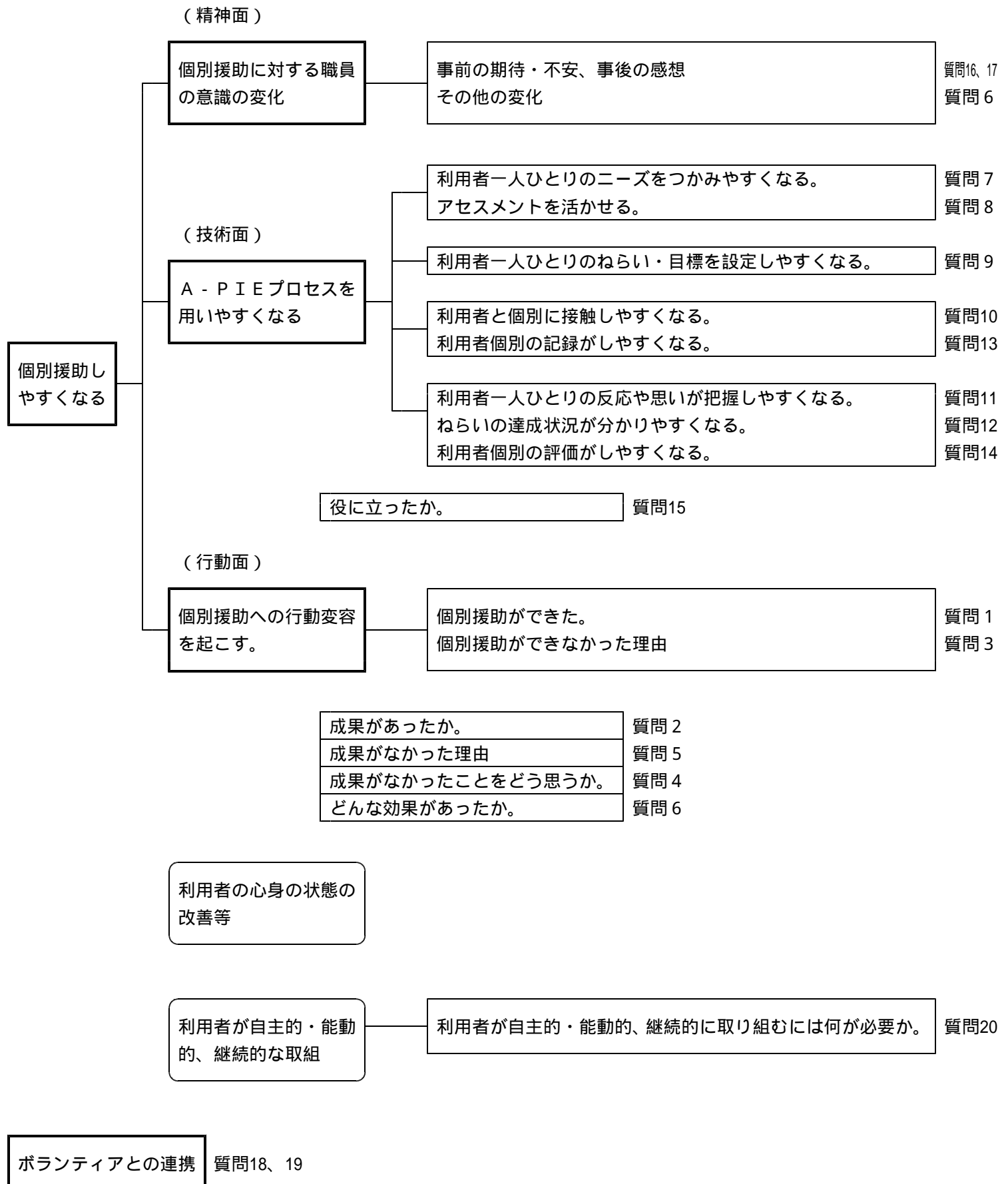
このアンケート調査の結果を事業実施前後で比較した。

また、「ウィルコクソンの符号順位和検定」を用いて事業実施前後の統計的有意差を検定した。（ - 7 参照）

(図表 5 - 3) 職員調査体系図

(仮説：職員)

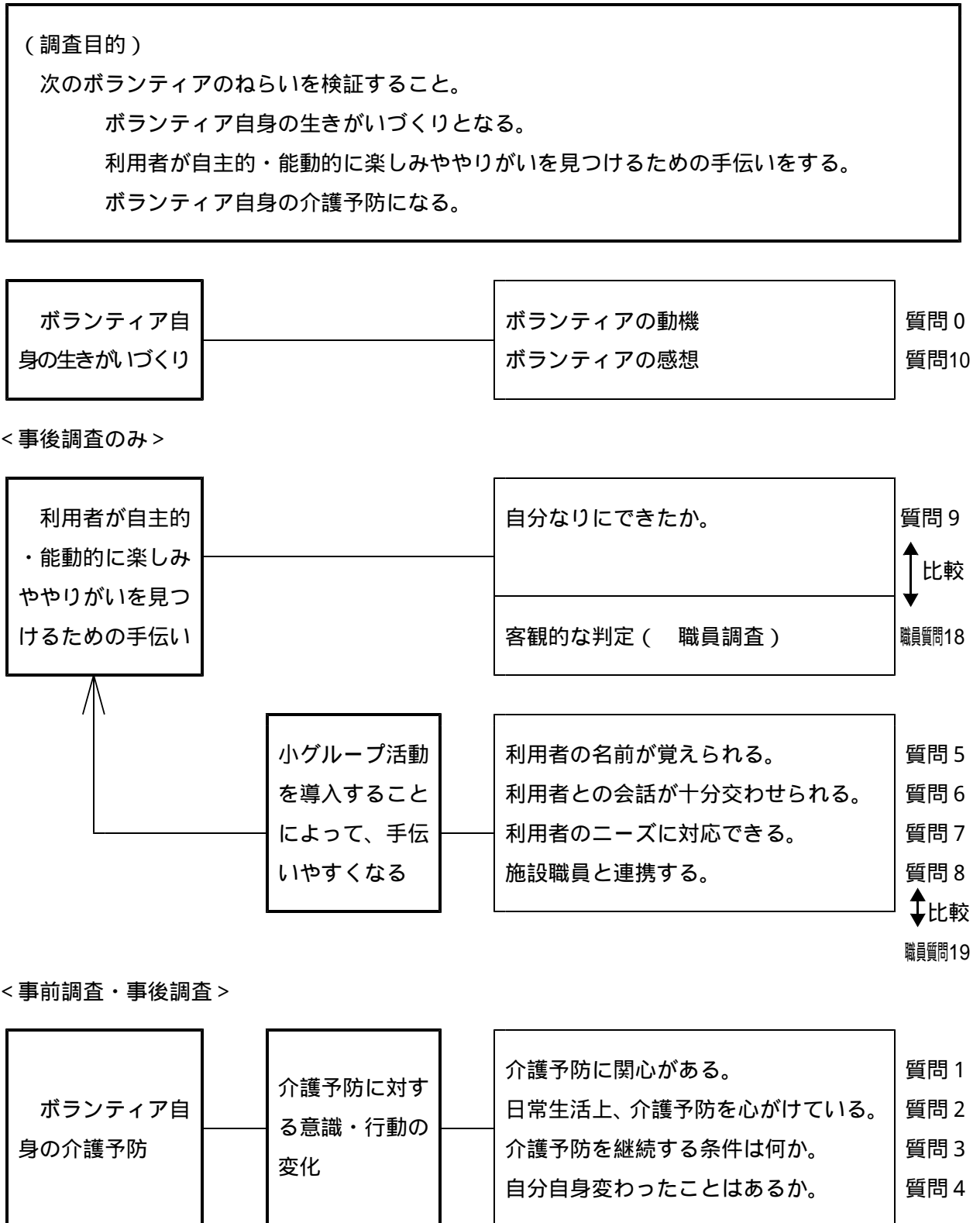
利用者のニーズに合わせた小グループ活動を導入することで、施設職員は個別援助がしやすくなる。



(3) ボランティア

ボランティアに対する調査目的及びアンケート調査を体系化すると、(図表5-4)のとおりとなる。

(図表5-4) ボランティア調査体系図



4 調査対象

(1) モデル事業実施前

利用者に対する事前アンケート調査等及び日常生活基本チェックリストについては、モデル事業実施施設の利用者でモデル事業に参加するものを対象とした。

利用者に係るMARRCCについては、アンケート調査等の回答があったものを対象とした。

利用者の家族に対する事前アンケート調査については、利用者に対する事前アンケート調査等の回答があった利用者の家族で、原則として利用者と同居する者を対象とした。

職員に対する事前アンケート調査については、3施設の全職員を対象とした。

ボランティアに対する事前アンケート調査については、本事業のためにボランティアで参加した概ね60歳以上の者を対象とした。

(2) モデル事業実施後

事後調査は、原則として事前アンケート調査に回答のあった者でモデル事業終了時にも在籍していたものを対象とした。

ただし、ボランティアについては、モデル事業終了時に在籍していた全員を対象とした。

その結果、調査対象者数は(図表5-5)のとおりであった。

5 調査方法

利用者に対するアンケート調査及び日常生活基本チェックリストについては、原則として利用者本人が回答したが、不備のあるものについては職員が聞き取りにより補足した。

利用者のグループ希望の理由については、職員が聞き取った。

利用者に係るMARRCCについては、職員が実施した。ただし、一部の項目については家族アンケート質問にMARRCCの項目を加えて、その結果を参考にした。

家族に対するアンケート調査については、原則として職員が利用者を送迎する際に利用者の家族に調査票を手交し、記入を依頼して回収した。

職員に対するアンケート調査については、各施設の検討委員が各職員に対し調査票を手交し、記入を依頼して回収した。

ボランティアに対する事前アンケート調査については、原則としてボランティア研修時に実施し、その場で記入を依頼して回収した。(一部は職員により記入を依頼、回収した。)

ボランティアに対する事後アンケート調査については、職員がボランティアの最終回に記入を依頼して回収した。

6 調査実施期間

モデル事業実施前の事前調査	平成17年10月末日～平成17年11月中旬（約2週間）
モデル事業実施後の事後調査	平成18年2月中旬～平成18年2月末（約2週間）

7 回収状況

回収状況は、(図表5-5)のとおりであった。

なお、調査対象の利用者には、回答が不能な重度の認知症高齢者等も含まれている。

(図表5-5) 調査対象者数、回答者数等

(単位：人)

実施施設	実施時期	利用者				利用者の家族		
		総数	調査対象者数	回答者数	回答率	調査対象者数 ⁴⁾	回答者数	回答率
天橋の郷通所介護事業所	事前	90	69 ¹⁾	65	94.2%	53	38	71.7%
	事後	98	52 ²⁾	52	100.0%	41	25	61.0%
亀岡あゆみデイサービスセンター	事前	111	70 ¹⁾	67	95.7%	56	43	76.9%
	事後	112	58 ²⁾	52	89.7%	45	45	100.0%
(財)宇治市福祉サービス公社西小倉	事前	110	37 ^{1,3)}	37	100.0%	36	15	40.5%
	事後	104	30 ^{2,3)}	30	100.0%	28	12	42.9%
合計	事前	311	176	169	96.0%	145	96	66.2%
	事後	314	140	134	95.7%	114	82	71.9%

実施施設	実施時期	職員			ボランティア		
		調査対象者数	回答者数	回答率	調査対象者数	回答者数	回答率
天橋の郷通所介護事業所	事前	7	7	100.0%	12	12	100.0%
	事後	7	7	100.0%	12	11	91.7%
亀岡あゆみデイサービスセンター	事前	11	11	100.0%	1	0	0%
	事後	11	11	100.0%	0	0	-
(財)宇治市福祉サービス公社西小倉	事前	13	13	100.0%	10	5	50.0%
	事後	12	12	100.0%	7	3	42.9%
合計	事前	31	31	100.0%	23	17	73.9%
	事後	30	30	100.0%	19	14	73.7%

1) 寝たきり又は座位を保てない利用者及びモデル事業に参加の意思を示さなかった利用者は、調査対象から除いた。

2) 「事前調査回答者数」から「事業終了時に通所していない人数」を除いた人数。

3) 利用者のうちモデル事業を実施した月、木及び土曜日に通所している者に限る。

4) 回答のあった利用者の家族のうち同居している者に限る。

8 回答者の基本属性

モデル事業実施前の事前アンケート調査に回答のあった利用者169名の基本属性は、次のとおりである。

属性の区分判定時点は、グループについてはモデル事業終了時点、それ以外の項目についてはモデル事業開始時点とした。

(1) グループ

調査結果の分析上では、利用の曜日により異なるグループに属している利用者はその他のグループに属しているものとした。

また、天橋の郷通所介護事業所の園芸グループについては、活動内容から判断して、調査結果の分析上では物品作成等グループに含めた。

(亀岡あゆみデイサービスセンターのものづくり倶楽部については、そのグループのみに属している利用者がいなかったためその他のグループとした。)

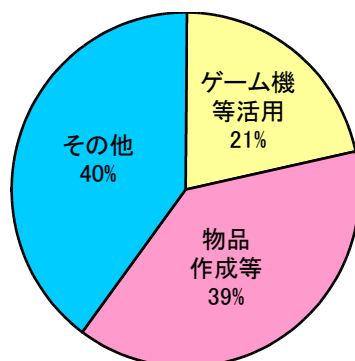
(図表 5 - 6 - 1) グループ別利用者数

(単位 : 人)

実施施設	小計	ゲーム 機等活用	物品作成等		そ の 他			
			物品作成等	園 芸	園 芸	カラオケ	ゲーム・観	ものづくり
天橋の郷通所 介護事業所	65 (65)	17 (17)	22 (22)	26 (26)				
亀岡あゆみデイ サービスセンター	67 (112)	2 (10)	3 (17)			62		
						(27)	(38)	(20)
(財)宇治市福祉 サービス公社西小倉	37 (38)	17 (17)	15 (16)		5 (5)			
合 計	169 (215)	36 (44)	66 (81)		67 (90)			

下段()書きは、週に複数日通所する利用者等で複数のグループに属している場合を含めた延べ人数。

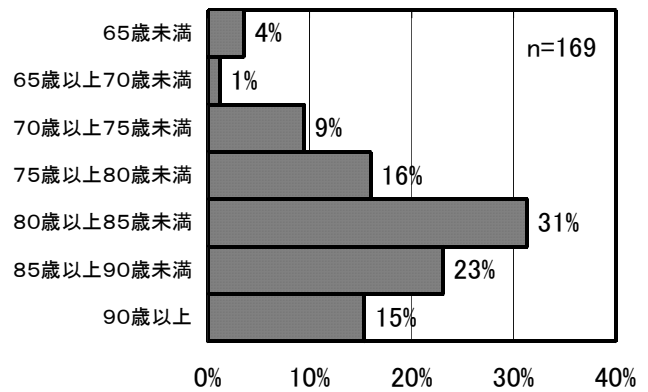
(図表 5 - 6 - 2) グループ別利用者割合



(2) 年 齢

(図表 5 - 7 - 1) 年齢別利用者数 (単位 : 人) (図表 5 - 7 - 2) 年齢別利用者割合

実施施設	小計	天橋の郷	亀岡あゆみ	西小倉
65歳未満	6	4	2	0
65歳以上70歳未満	2	1	1	0
70歳以上75歳未満	16	7	5	4
75歳以上80歳未満	27	15	8	4
80歳以上85歳未満	53	20	21	12
85歳以上90歳未満	39	10	17	12
90歳以上	26	8	13	5
合計	169	65	67	37

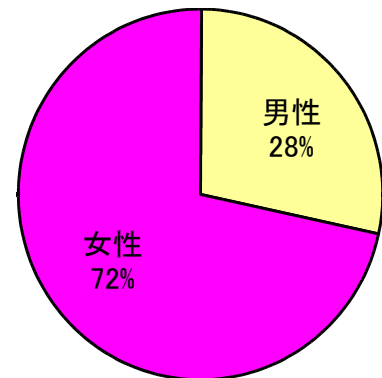


(3) 性 別

(図表 5 - 8 - 1) 男女別利用者数 (単位 : 人)

実施施設	小計	男性	女性
天橋の郷通所 介護事業所	65	25	40
亀岡あゆみデイ サービスセンター	67	14	53
(財)宇治市福祉 サービス公社西小倉	37	9	28
合計	169	48	121

(図表 5 - 8 - 2) 男女別利用者割合



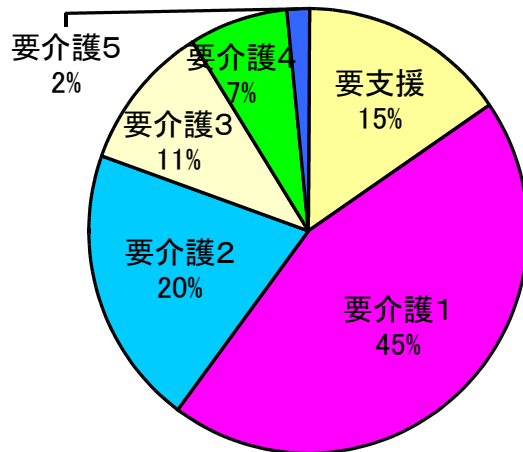
(4) 要介護度

(図表 5 - 9 - 1) 要介護度別利用者数

(単位 : 人)

実 施 施 設	小 計	要支援～要介護1		要介護2以上			
		要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
天 橋 の 郷 通 所 介 護 事 業 所	65	38		27			
		10	28	12	6	8	1
亀 岡 あ ゆ み デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー	67	44		23			
		13	31	14	6	2	1
(財) 宇 治 市 福 祉 サ ー ビ ス 公 社 西 小 倉	37	20		17			
		3	17	8	6	2	1
合 計	169	102		67			
		26	76	34	18	12	3

(図表 5 - 9 - 2) 要介護度別利用者割合



(5) 認知症高齢者の日常生活自立度

(図表 5 - 1 0 - 1) 認知症の日常生活自立度判定基準別利用者数

(単位：人)

実施施設	小計	該当なし又はランク		ランク 以上			
		該当なし	ランク	ランク	ランク	ランク	ランクM
天橋の郷通所 介護事業所	65	50		15			
		29	21	10	4	1	0
亀岡あゆみデイ サービスセンター	67	42		25			
		36	6	21	4	0	0
(財)宇治市福祉 サービス公社西小倉	37	29		8			
		4	25	8	0	0	0
合計	169	121		48			
		69	52	39	8	1	0

(図表 5 - 1 0 - 2) 認知症の日常生活自立度判定基準別利用者割合

